

第38週の発生動向(2007/9/17~2007/9/23)

ヘルパンギーナについては、むつ保健所管内において第34週から**警報**が継続しています。

第38週五類感染症定点把握

注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点
(100) インフルエンザ															0				
(72) RSウイルス感染症															0				
(73) 咽頭結膜熱	1	0.11	1	0.11					1	0.17	1	0.25	4	0.10	-2			1	0.13
(74) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.44	17	1.89	2	0.22	1	0.20	4	0.67	13	3.25	41	0.98	4			4	0.50
(75) 感染性胃腸炎	19	2.11	9	1.00	3	0.33	6	1.20	6	1.00	17	4.25	60	1.43	13	3	3.00	16	2.00
(76) 水痘	2	0.22	2	0.22	1	0.11	1	0.20	15	2.50	8	2.00	29	0.69	2	1	1.00	1	0.13
(77) 手足口病	22	2.44	2	0.22	13	1.44	17	3.40	6	1.00	4	1.00	64	1.52	-15	1	1.00	21	2.63
(78) 伝染性紅斑			2	0.22	4	0.44			2	0.33	3	0.75	11	0.26	8				
(79) 突発性発しん	5	0.56	3	0.33	2	0.22	2	0.40	3	0.50	3	0.75	18	0.43	-8			5	0.63
(80) 百日咳														0					
(81) 風しん														0					
(82) ヘルパンギーナ	14	1.56	4	0.44	2	0.22	3	0.60	9	1.50	50	12.50	82	1.95	-59	3	3.00	11	1.38
(83) 麻しん(成人を除く)														0					
(84) 流行性耳下腺炎					2	0.22	3	0.60	3	0.50			8	0.19	-4				
(86) 急性出血性結膜炎														0					
(87) 流行性角結膜炎	2	1.00					1	1.00					3	0.27	-1			2	1.00
(95) マイコプラズマ肺炎											1	1.00	1	0.17	-2				

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科 基幹
東地方	2	1	1	0
弘前	15	9	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
青森市	12	8	4	2
合計	65	42	23	11

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数 0

表 以外の感染症法対象疾患 (注: 結核については4月1日からの累計で、届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 弘前1人、上十三1人 (19年計:118人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 八戸1人 (19年計: 33人)

# 感染症の窓

# 結核

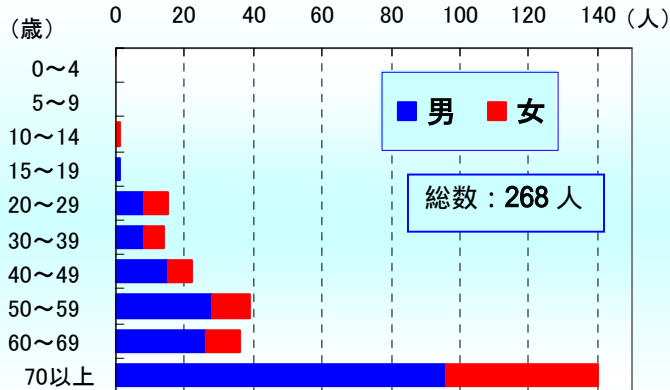
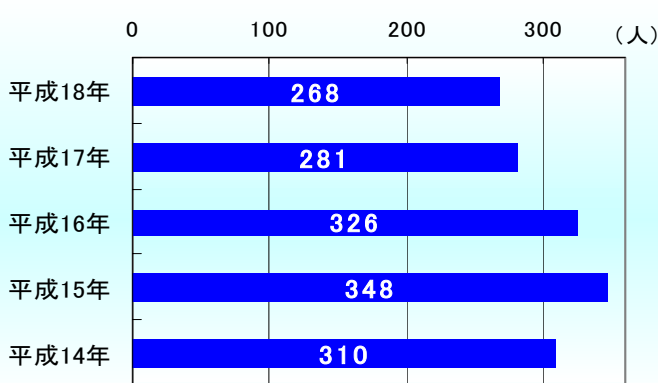


図1 新登録結核患者届出数年次推移(青森県: H14-H18) 図2 性・年齢層別新登録結核患者数(平成18年青森県)

本疾患は、2007年4月感染症法一部改正に伴い、重篤性や感染力の度合いから、二類感染症に加えられ、医師の届出が「直ちに」となりました。患者数は、戦後以降、医療の進歩、公衆衛生水準の向上等により減少しましたが、わが国において制圧すべき重要な感染症のひとつです。青森県では、平成14年まで減少していた登録者数は、平成15年には増加し、以後僅かに減少傾向にあります。平成18年には268人が登録されています(図1)。本県の年齢層別登録者数では、60歳以上の年齢層が六割以上を占めており、男性総数は182人、女性では86人でした(図2)。

**感染予防** 2週間以上続く咳や痰、微熱、胸痛、倦怠感など風邪様症状が長引く方は、早めに医療機関を受診し、早期発見、早期治療を開始することが大切です。

( \* 9月24日~9月30日は結核予防週間です )